



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



立山の活動風景（富山署）



白馬岳周辺の活動風景（中信署）



各地で高山植物等保護

パトロールを実施



ウルップソウ

（P 2 に関連記事）

主な項目	○各地で高山植物等保護パトロールを実施 P 2
	○教職員を対象に「森林・林業体験学習研修会」を開催 P 3
	○各地からのたより P 4



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

各地で高山植物等 保護管理事業を実施

グリーンパトロールの保護活動

「国有林野管理課」長い梅雨も明け、八月に入り、一気に夏全開となり、高山帯へ多くの登山者が訪れ、夏山最盛期となっております。

中信署・富山署では、グリーンパトロール隊を結成して高山植物の保護活動を行っております。

中信署では、昭和十一年から職員による監視活動が始まり、登山ブームの高まりとともに昭和三十九年から地方行政・報道関係・山岳関係者等からなる「高山植物等保護対策協議会」が結成され保護巡視員を配置しての保護活動を行い、昭和四十五年からは現在のグリーンパトロール隊が結成されました。

グリーンパトロール隊は、今年で三十七年になり、地域も白馬、涸沢、槍沢の三地区で十五名の隊員が配置されています。

富山署では、昭和四十六年に黒部アルペンルートの全線開通に伴い入り込み者の増加から立山に自治体、関連企業、山小屋関係者等からなる「立山地区国有林野保護管理協議会」を設立し、この年からグリーンパトロールの活動が始まりました。その後、薬師岳・雲の平、黒部、

白馬・朝日・北又の三地区でも協議会が設立され、今年は二十二名の隊員が各地区に配置されています。

各地区に配置された隊員は、約一ヶ月間、グリーンロープによる立ち入り規制、啓発看板の設置・修理などの高山植物の保護管理やゴミ拾い、各種調査を実施します。今年の隊員の中には十一名の女性がいる、登山者へ優しい口調で注意喚起を行っています。

昨年は、グリーンパトロール隊員が骨折して動けなくなった登山者を救助し、また、疲労で動けなくなった登山者を山小屋まで運ぶなどの人命救助も行っていました。



立山での活動風景（富山署）



上高地での活動風景（中信署）

高山植物を守れ

「富山署」猛暑が続く七月十四日、ブナ坂国有林内の立山黒部アルペンルート沿いでボランティアによる、外来性植物の除去作業を実施しました。

当日、県内外から参加した十一名は自己紹介の後、富山県が作成した手引書を参考に、OBボランティアの松久さんから除去植物の説明や除去の方法を学んだ後、ゼッケンを付けシャベルや草取鋏を手にも、弘法から天狗平までの道路沿いで作業を行いました。



除去植物の説明を受けて

あいにく小雨と霧の中での作業となり、北アルプスの雄大な景色は見られませんでした。今回初めて参加した方もいて、側溝に咲いているセイヨウタンポ

ポの強さや外来種の種類の多さに驚きながら、在来植物を傷つけないよう注意を払い、セイヨウタンポやオオバコなど約二千五百株を除去しました。同ルート沿いでは、平成九年に富山県が除去作業を始め、以降、関係機関や団体等が作業を行っており、当署におけるボランティア作業も五回目となりましたが、これからも貴重な高山植物を守るため継続したいと考えています。

恵那山で初めて実施、 グリーン・サポート・ スタッフ活動開始

「東濃署」岐阜県中津川市と長野県阿智村にまたがる恵那山（標高二、一九一メートル）を中心とするグリーン・サポート・スタッフによるパトロールが七月十五日からスタートしました。

パトロールの初日は、黒井沢登山口から恵那山山頂までのパトロールを行い、自然保護の啓発チラシの配布、ゴミ拾い、登山道のわかりにくいところへのマーカー等を実施しました。また二回目のパトロールは神坂峠から恵那山山頂までのパトロールを実施しました。



登山者にチラシを配布して

梅雨の合間で両日とも天候に恵まれ順調なスタートとなりました。パトロールは十月中旬まで行う予定で、登山者に自然に接するルールを伝え、「マナー向上のため精力的にパトロールを実施していく」としています。

**天生国有林で
オオバコの除去作業**

「飛騨署」近年、入り込み者数の増加に伴い、外来種であるオオバコの繁殖が進んでいることから、八月七日名古屋シティ・フォレスト事業により、天生国有林内に繁殖したオオバコの除去作業を行いました。

天生湿原の貴重な在来種の生育を妨げるオオバコの除去は、昨年度から行っており、今年はその延長線上を実施。今年度は、大雪や大雨の影響で二度の日程変更を余儀なくされたにもかかわらず、当日は九名の隊員が名古屋や富山から参加されました。当署職員による作業内容の説明の後、二班に分かれてそれぞれの持ち場へ移動し、昼食休憩を挟みながら、オオバコが繁茂した箇所を集中的に除去しました。

遊歩道の様に踏み固められた場所に生えるオオバコは、二股の除草器具を用いても根こそぎ抜き取るのは難しく、隊員たちは汗を流しながら黙々と作業にあたっていました。昨年度に除去した遊歩道沿いからはオ

オオバコがほとんど消失しており、昨年度も参加していた隊員たちからはその成果に喜びの声が上がり、除去作業の効果を参加した皆で実感することができました。作業を終えた後、少ない時間ではありましたが全員で湿原散策を行いました。時期の都合によりニッコウキスゲが数本咲き残っているだけの寂しい景色を眺めながらの散策となりましたが、隊員からは「来年こそはミズバショウが見られる時期に出来るといいね。」という声も聞かれ、来年度も参加協力をお願いしながら無事終了しました。



オオバコ除去作業の様子

**教職員を対象に
「森林・林業体験学習研修会」
を開催**

「指導普及課」中部森林管理局は、学校における「総合的な学習」の実施において、森林・林業に対する知識を深め、

総合学習のプログラム作成等の参考にしていたため、八月四日、北信地域の小中学校の教職員を対象として、「カヤノ平自然休養林」において森林・林業体験学習研修会を開催しました。

当日は、中部局、北信署、北信地方事務所の職員が、中野市等の小中学校教諭六名を対象として、「カヤノ平遊歩道」で動植物の観察及び森林の機能などの学習を行った後、近接するカラマツ林において、除伐Ⅱ類作業を行いました。

作業に先立ち、「作業の安全確保」、「ノコギリなど道具の使用方法」の説明を受けた先生方は時間を忘れ熱心に作業に取り組んでいました。

参加した先生方からは、「身近にこんなすばらしい自然があることをあらためて感じました。」「ヤマナメクジ等の生物も、子供達は大好きで、どう伝えていくか考えたい。」などの意見をいただきました。

「森林ふれあいセンター」 八月四日、木曾森林環境保全ふれあいセンターと木曾地方事務所が合同で、木曾町福島の城山国有林及び赤沢自然休養林において、木曾谷地域の小中学校教職員を対象とした森林・林業体験学習会を開催され、教職員六名が参加しました。

午前中は、「城山史跡の森」で、遊歩道沿いでの動植物の観察、森林の機能、木材の活用、木曾谷における森林と林業

などについて学習しました。また、午後からは、赤沢自然休養林で間伐作業を行いました。ここでは、作業に先立ち「作業の安全確保」、「のこぎり・鉋などの道具の使用方法」のほか「間伐の意味」、「樹高の測り方」などの説明の後、間伐作業を実施しました。



樹高の測定方法について



湿原で動植物の観察

ヒメバラモミ保護管理 調査事業検討委員会を開催

〔指導普及課〕八月四日、中部森林管理局において「ヒメバラモミ保護管理調査事業検討委員会」を開催しました。

ヒメバラモミは、マツ科トウヒ属で胸高直径一・三メートル、樹高四十メートルほどになる高木です。環境省レッドデータブックの絶滅危惧ⅠBに指定され、樹皮は、灰色又は灰褐色、葉は六〜一五センチ、先端がとがり断面は四角、毬果は枝の先につき二・五〜四・五センチ。生育地は、八ヶ岳と南アルプスの限られた地域で、現在、二千本程度と推定されています。

中部局では、生物多様性の確保の観点から、保護林の事業として平成十六年度から事業に着手して、平成十七年度からは(社)ゴルフアークの緑化促進協力会の協賛をいただいで六カ年計画でその増殖・保護に取り組んでいます。

今回の検討委員会では、平成十六、十七年度の現地調査の報告、分布の現状と



ヒメバラモミの雄花

遺伝的変異について、接ぎ木用台木の養成状況と接ぎ木の実施時期等について検討を行いました。

本年度は、引き続き台木の養苗管理と接ぎ木に使用する穂木の採取を行う予定であり、希少種であるヒメバラモミが衰退することなく継続して生育ができるよう保護管理を行うとともに、採種林・見本林の造成を進めていくこととしていきます。

各地からのたより

平成十八年度名古屋シティフォレスト事業(第九回)

〔愛知所〕七月二十日、段戸国有林において、第九回名古屋シティフォレスト事業が行われ、愛知県内から十三人の隊員が参加しました。

当日は、生憎の雨模様となり下刈作業から除伐作業に変更して実施しました。現地は、針広混交林とするために広葉樹を育てている箇所で、参加した隊員は全員雨合羽姿で作業に取り組み、植栽木を



熱心にシロモジを処理する隊員

被圧している灌木を中心に、丁寧に処理しました。昼頃には雨も止んで少し日が差し込む陽気となり、段戸湖を眺めながら楽しく昼食を取りました。

参加した隊員からは「夏の作業としては、やはり下刈がしたかった。」との声もありましたが、午後もし引き続き除伐作業を行い、さわやかな汗を流した一日でした。

「子ども樹木博士にチャレンジ」

〔名古屋事務所〕七月二十三日、じょうこうじ響きの森において、「第四回森林ふれあい講座」を開催しました。

今回の講座は、自然に親しみながら樹木の勉強を行うことを目的に、小中学生を対象とし、「子ども樹木博士にチャレンジ」を開催しました。

当日は、小学生九名の外、保護者等の参加を含め総勢十三名が受講しました。

午前中の約二時間は、講師の横井健二自然観察指導員の案内により、森林交流館から丸根山園地周辺で約三十種類の樹木の観察を行い、参加者は講師のユニークで分かりやすい説明に、一つでも多くの樹木を覚えようと真剣なまなざしで耳を傾けていました。

午後からは、自習を挟み、認定試験を行いました。二七問の難問に悪戦苦闘しながらも観察会で学んだことを思い出しながら必死に取り組んでいました。



講師の説明を聞きながら

結果は、六級から二段までさまざまでしたが、二十五問も正解した小学生には、講師もびっくりしていました。さすがに大人では、全問正解者が続出という結果になりました。

最後に参加者全員に認定証を渡し、今後いろいろな樹木を観察するなかから、森林や自然に興味を持ってもらえるようお願いし閉講しました。

「森林の重要性について学ぶ」

〔名古屋事務所〕七月二十七日、愛知教育大学附属岡崎中学校二年生二名が夏休みの自由研究の課題として、森林の重要性や役割について学ぶため、名古屋事務所に来所しました。

同学校では、生徒一人ひとりが興味のあることを、地域社会に出かけ学ぶ学習を取り入れています。今回二人は、森林が生活や環境に重要な役割を果たすことに興味を持ち、詳しく知りたいと考え、ホームページを見て当所を訪れたものです。

(5) 平成18年8月



森林や環境に興味をもって

事務所職員が、国有林の概要や業務の内容について説明し、その後、森林の状況や働きについてプレゼン形式で実施しました。これからの森林資源の活用方法や森林と酸素濃度についての関係、森林と川との関わり等の多彩な質問に担当職員を悩ます場面もあり、有意義な勉強会となりました。

二人は将来、政治家、教員をめざしているとのことであり、今回学んだ事が、今後において少しでも役に立つことを願うとともに、自ら率先して森林や林業を学びたいという意欲に、担当者としてやりがいを感じることができました。

都市部の住民が 段戸で枝打を体験

「愛知所」七月二十九日、愛知県が都市部と山村の交流促進を図ることを目的として取り組んでいる「三河の里山ツアーリズム」による体験林業（枝打作業）が実施されました。

この取り組みは愛知県が毎年、参加者に農業・林業の体験してもらい、山村と都市部の交流を行っているもので、本年

度は林業体験を行いたいと当所へ依頼されたことから、段戸国有林をフィールドとして提供することとなりました。

当日は、抽選により選ばれた二十一人の参加者がヘルメット・防蜂網・防蜂手袋を装着し二十二年生のヒノキの枝打に挑戦しました。



丁寧にヒノキの枝を切る参加者

参加者の中には、初めて鋸を使ったという女性から、将来は森林に係わる仕事をしてみたいという中学生まで様々な人が集まり、参加者全員が一本一本丁寧に枝打を行い、きれいに整理された林分を作る事が出来ました。

参加者の多くが「また来たい。」「またやりたい。」と感想を述べて帰られました。

「うなづき湖フェスティバル」 開かれる

「富山署」梅雨空が残る七月二十九日、黒部市宇奈月町の宇奈月ダムに於いて、

「うなづき湖 フェスティバル2006」が開催され、富山署は森のクラフト教室を行いました。

このうなづき湖フェスティバルは平成十三年から毎年「森と湖に親しむ旬間」に併せて行われており、主催団体と地域とが協同で開催するイベントとなりました。

当日は、ダム見学や遊覧船体験乗船、自然観察会などで多くの家族連れが楽しみ、クラフト教室は九時の開会前から家族連れが訪れ、各々が工夫を凝らし、輪切板や小枝、木の実を使って動物人形や壁掛け飾りなどを作りました。

なかには、「親のほうが一所懸命になりますね。」と言って童心に返り楽しんでいる様子や、親子共同で作品を作る微笑ましい姿などが見られ、クラフト教室は終日賑わいました。

また、毎回参加している家族から「いまも玄関に飾っていますよ。」との声を聞き、森のクラフト教室がイベントに定着していることから、今後も継続したいと考えています。



親子一緒になって

「丸太切り体験盛況」



うまく切れるかな

「名古屋事務所」七月二十八日〜三十日の三日間、名古屋市内の曽根地区の夏祭りイベントに参加しました。

この催しは地元のお店街が行ったもので、子どもたちに少しでも自然に興味を持って欲しいとの要望に応え、丸太切り体験と鉛筆立て作りなどを行いました。

三日間とも梅雨明け間近で暑い日となりましたが、小中学生を中心に大勢の子どもが、体験に訪れました。鋸を持つのが初めての子どもが多く、使い初めは苦労していましたが、切り進んでいくうちに上手になっていきました。その後、自分で切った木に穴を開け、自分だけの鉛筆立てを完成させていました。

今後もこういった機会を通じ、子どもたちに体験してもらおう中から、森林や自然に興味を持ってもらえるよう取り組んでいきたいと思えます。

第1回国有林モニターアンケートの結果概要

平成18年度国有林モニターへのアンケートを6月に実施しました。今回のテーマは「木材利用」と「森林整備」で、30名のモニターの方に答えていただきました。その概要は次のとおりです。

●問 国有林から産出された木曾ヒノキ等を使って修理されたことを知っている伝統的な建築物を選んで下さい。(複数選択)

◆解答

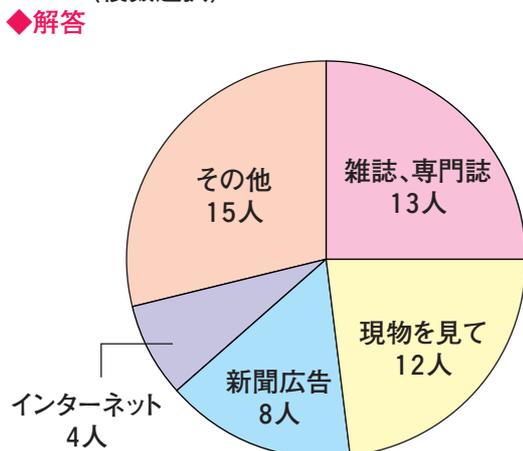
伊勢神宮(三重県)	23人
善光寺(長野県)	17
錦帯橋(山口県)	9
名古屋能楽堂(愛知県)	9
明治神宮神楽殿(東京都)	6
大洲城(愛媛県)	4
湯島神社本殿(東京都)	1
一つも知らない	5

●問 間伐材を使った商品を知っていますか。(自由記述)

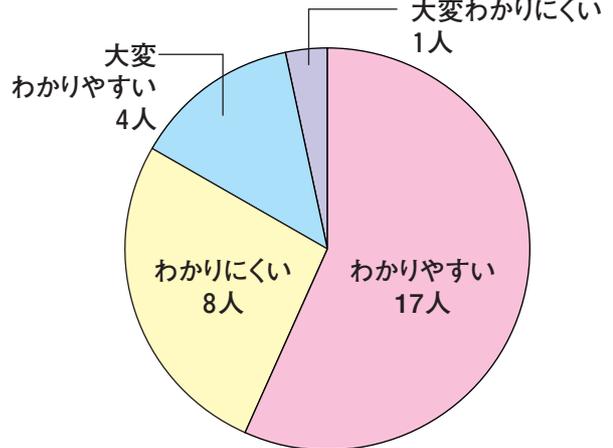
◆解答

ガードレール、法面保護、柵等	21人
建築資材	12
テーブル、いす、ベッド	11
お盆、コースター、菓子鉢	10
ベンチ	9
紙	8
あずまや、橋、ログハウス	8
おもちゃ	7

●問 間伐材を使った商品をどこで知りましたか。(複数選択)



●問 森林整備という言葉はわかりやすいですか。

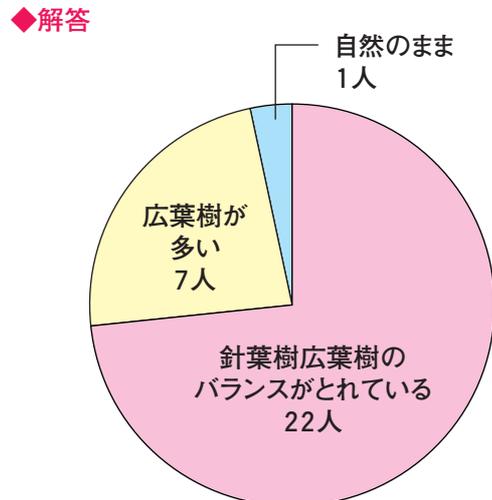


●問 森林整備という言葉から何をイメージしますか。(複数選択)

◆解答

混み合っている木を抜き切る	26人
木を植えて緑を増やす	25
枝打ちをしたり、つるを切る	21
林道や作業道を作る	20
苗木を守るため下草を刈る	20
ダムを設置したり緑化する	19
歩道や木道を整備する	16
ブナ等をじゃまする低木を切る	15

●問 これからの国有林は、どんな森林を育てていけばいいですか。



人のうごき

林野庁人事(抄)

八月一日付

- ▽近畿中国森林管理局広島森林管理署長(中部森林東信森林管理署長) 瀧川 正一
- ▽中部森林管理局東信森林管理署長(林野庁森林整備部計画課施工企画調整室長) 大西 満信
- ▽林野庁森林整備部計画課付(国土交通省出向) 中部森林管理局治山課長 北浦 眞吾
- ▽中部森林管理局森林整備部治山課長(林野庁森林整備部治山課災害査定官) 河崎 則秋
- ▽企画調整室管理官兼計画部国有林野管理課(独) 林木育種センター企画調整課企画調査役 今井 道博
- ▽計画部森林技術センター副所長(企画調整室管理官兼国有林野管理課) 岩下 良治
- ▽中信森林管理署流域管理調整官(岐阜署総務課長) 松元 和正
- ▽岐阜森林管理署総務課長(中信署流域管理調整官) 村山 博
- ▽計画部国有林野管理課森林利用係長(中信署業務課技術専門官) 野尻 靖
- ▽中信森林管理署業務課技術専門官(木曾署南木曾支署蘭森林事務所森林官) 藤井 四郎
- ▽南信森林管理署業務第一課付(国有林野管理課森林利用係長) 大前 辰男
- ▽計画部指導普及課付(愛知森林管理事務所)(指導普及課(名古屋事務所)) 新木 昭一
- ▽中信森林管理署業務課土木係長(東信署業務第二課土木係長) 倉石 明典
- ▽東信森林管理署業務第一課森林ふれあい係長(東信署軽井沢森林事務所森林官) 山口 穰
- ▽東信森林管理署業務第二課土木係長(木曾署南木曾支署業務課土木係長) 小瀬木文武
- ▽東信森林管理署軽井沢森林事務所森林官(南信署業務第二課森林育成係長) 林 英樹
- ▽南信森林管理署業務第二課森林育成係長(東信署業務第一課森林ふれあい係長) 村山 博
- ▽木曾森林管理署南木曾支署業務課土木係長(中信署業務課土木係長) 尾近 茂
- ▽木曾森林管理署南木曾支署蘭森林事務所森林官(木曾署三岳森林事務所森林官) 金 敏博
- ▽飛騨森林管理署業務第二課森林育成係長(飛騨署町方森林事務所森林官) 前田 和彦
- ▽飛騨森林管理署町方森林事務所森林官(岐阜署総務課(管理係)) 成瀬 徹
- ▽岐阜森林管理署総務課係長(岐阜署業務第一課森林ふれあい係長) 芹田 滋弘
- ▽岐阜森林管理署業務第一課森林ふれあい係長(岐阜署署樽見森林事務所森林官) 洞口 豊美
- ▽岐阜森林管理署業務第二課森林育成係長(飛騨署業務第二課森林育成係長) 上島 昌弘
- ▽岐阜森林管理署樽見森林事務所森林官(岐阜署業務第二課森林育成係長) 大坪 堅二
- ▽豊邦森林事務所(販売課企画係(生産販売担当愛知所)) 小野塚 健
- ▽北信森林管理署長野森林事務所(北信署業務課経営係) 山下 結
- ▽東信森林管理署佐久森林事務所(東信署業務第一課経営係) 富元 雅史
- ▽南信森林管理署業務第一課経営係(南信署下諏訪森林事務所) 森田 直宏
- ▽南信森林管理署下諏訪森林事務所(南信署業務第一課経営係) 岡崎 真吾
- ▽木曾森林管理署南小川森林事務所(木曾署業務第二課販売係) 湯浅 翠
- ▽木曾森林管理署木曾福島森林事務所(木曾署業務第一課経営係) 西方雄一郎
- ▽木曾森林管理署南木曾支署柿其森林事務所(木曾署南木曾支署業務課販売係) 松原 正志
- ▽木曾森林管理署南木曾支署阿寺森林事務所(北信署長野森林事務所) 菅沼 伸行
- ▽飛騨森林管理署古川森林事務所(飛騨署業務第一課経営係) 川久保 仁

七月三十一日付

行事・会議等の予定

- ◎防災訓練 9月1日 中部森林管理局管内
- ◎流域調整官会議 9月5・6日 中部森林管理局
- ◎森林施業現地検討会 9月11・12日 木曾署管内
- ◎局長等会議 9月14・15日 林野庁
- ◎森林パノラマウォーク 9月14日 南信署管内
- ◎レクリエーションの森 リフレッシュ対策検討委員会 9月20・21日 愛知所管内
- ◎名古屋シティフォレスト事業 9月22日 岐阜署管内
- ◎低コスト作業システム現地検討会 9月25・26日 飛騨・岐阜署管内
- ◎署長等会議 9月27・28日 中部森林管理局
- ◎国有林野管理審議会 9月28日 中部森林管理局
- ◎木曾川・森づくりin赤沢 9月30日 木曾署管内

訂正

第28号の6頁2段の「雨を降らせたらどうなるかな」の写真が異なっていました。訂正してお詫び申し上げます。



◇東殿山

「岐阜署」郡上のナー八幡出ていくときは雨も降らぬに袖しぼる“を代表歌詞とする郡上踊りで名高い八幡町、その八幡町を見守るようにそびえる山が東殿山です。

東殿山へは、以前は道が険しく登山者も多くありませんでしたが、生活環境保全整備事業により遊歩道、展望台など整備したことから、長良川流域では数少ない天然林が広がり、ヒノキやコウヤマキ、ヒメコマツなど大木の下には、太平洋型と日本海型の植物が数多く自生し、その中で生きる鳥や昆虫と出会える絶好の「自然とのふれあい空間」となりました。登山道は乙姫谷ルート、赤谷ルート、愛宕山三十三間道ルートの三ルートあり、何れも一時間から二時間のコースです。途中には、戦国時代(一五四一年)に東常慶氏により築かれ、その後(一五五九年)対岸の八幡山に陣を構えた遠藤

盛数氏に滅ぼされた赤谷山古城(東殿山城)の石垣跡や、水飲み場跡の石垣に歴史をかいま見ることが出来ます。

また、山頂付近からは対岸に八幡城の天守閣を、眼下には小駄良川、吉田川、長良川に囲まれた八幡市街地を眺めることが出来ます。

日本名水百選の第一号に指定された宗祇水をはじめ数々の湧水、用水が生活に密着した情緒ある町並みを形成している八幡町にお越しの時はチョット足を延ばしてみたいかがでしょうか。

◇アクセス

長良川鉄道「郡上八幡駅」下車徒歩約十五分で登山口



実践林・試験地等紹介



「森林技術センター」明治時代からヒノキやスギの植栽が行われ、人工林率九十四%の優良な林分となっている七宗国有林に設定しているこの試験地では、初回の間伐から柱適材径級(胸高直径20cm以上)を選木する収入間伐を繰り返し実施することにより、収益の増大や資源の有効利用を図りつつ複層林を造成することとしています。

複層林として樹下植栽した造林木についても、柱材生産を指向する施業を行い、ヒノキ人工林における柱材生産を最多にすることを目的としています。

当試験地は、昭和三十六年にヒノキを植栽した四十五年生の林分ですが、平成十六年に二回目の収入間伐を行い一定の成果を得たので、過去の生長量などのデータを分析し残存木の生長による将来の柱適材の収穫予測を行い、三回目の間伐・福層伐・受光伐・主伐に向け経過等の観察を行っています。

柱適材生産を明確な目的としての施業に取り組むことにより、劣勢木の肥大生長により利用できる立木が増大すること、初回間伐から販売することにより保

育作業の効率化が図れること、また非皆伐型施業となることから公益的機能の発揮に期待が出来ます。

当局管内においては、岐阜県南部から愛知県にかけて都市近郊のヒノキ人工林が広く点在し、その多くは保安林やレクリエーションの森に指定され、公益的機能の発揮が求められており、本課題の施業方法も施業コストの低減化と併せて活用できるものと考えています。

◇所在地・岐阜県加茂郡七宗町 七宗国有林一・二・九林小班 試験地の調査データなどは、「森林技術センターのホームページ」に掲載。

▼人工林率94%の七宗国有林



▲2回目の収入間伐後の試験地